

「令和4年度 第1回阿見町総合計画審議会」議事概要

審議会等の名称	令和4年度第1回阿見町総合計画審議会
開催日時	令和4年7月19日（火）午後2時30分から午後4時30分
開催場所	阿見町役場 4階 全員協議会室
議 題	1. 阿見町における総合計画について 2. 阿見町第6次総合計画策定の進め方について 3. 阿見町における施策動向（概要）について
公開・非公開の別	公開 *傍聴者0人
議事結果	<p>【出席者】 (委員) 平岡 博 委員、川畑 秀慈 委員、蓮井 誠一郎 委員、伊丹 一浩 委員、岩井 浩一 委員、吉田 美江子 委員、湯原 敦子 委員、山口 道子 委員、野呂 薫 委員、湯原 敏子 委員、渡邊 君江 委員、木村 美由紀 委員、戸澤 麻理 委員、本間 保 委員、齋藤 十郎 委員、藤田 加奈子 委員、吉田 幸二 委員、吉田 典子 委員、栗原 友香 委員</p> <p>(町) 千葉町長 佐藤町長公室長 政策企画課：糸賀課長、飯野係長、山口主任、高村主任</p> <p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 町長あいさつ 4. 委員紹介 5. 会長，副会長の選出について 6. 諮問 7. 阿見町第7次総合計画の策定について 8. 阿見町の現状分析について 9. 今後の審議会について 10. 閉会 <p>【会議の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の冒頭に各委員に対し委嘱状が交付された。 ・ 会長に岩井浩一委員，副会長に山口道子委員が選出された。 ・ 町長より岩井会長あてに諮問書が手渡された。 ・ 事務局より総合計画の概要及び審議会設置趣旨に関する説明が行われた。 ・ 次第7～9については事務局より資料に基づく説明が行われ，その後，質疑応答，意見交換が行われた。この内容は以下のとおり。

【質疑応答・意見交換（抜粋）】

- 委員：防犯の刑法犯認知件数の推計はだいぶ減ってきているように見えるが、町内を回ると、不法投棄がだいぶ増えているように感じる。その辺はどういう風になっているのか説明をお願いします。
- 事務局：不法投棄は最近増えていて、先日も不法投棄がされたというような話を聞いています。具体的な数字は今手元にございませので、次回までにお調べをしたいと思います。また、刑法犯認知件数が減ってはいますが、犯罪は10年前と比べて変わってきています。犯罪は巧妙化してきていますので、数が減っているから安全かという、決してそういうことではないという状況です。
- 委員：二酸化炭素排出量で産業部門が7割以上あり、県平均も10ポイント以上上回るというかなり厳しい値が出ているという印象を持つが、この原因について、エネルギーをたくさん使っているのか、それともエネルギーの発電方法がたくさんCO2を出す方法なのか、その相乗効果なのか、どういうふうな認識なのか。
- 事務局：今工業団地のエネルギーの消費状況というのがどういったものであるか、それがどのようにCO2に繋がっているかというのは、お調べしないとわからない部分ですが、確かに阿見町は3つの工業団地がございます。しかも製造業が非常に多いということで、電力の消費が非常に多くなっているという状況がございます。阿見町は、先日、ゼロカーボンシティ宣言というのを行いまして、2050年までにゼロカーボンを進めていくという大変大きな目標を掲げてございます。そういった意味でも、今後10年間、この総合計画その先に向けても、この脱炭素というのは、重要なテーマでありますので、そういった点も踏まえてご議論いただければと思います。
- 委員：阿見町の産業状態の構造について、RESASの情報もあると良いのではないか。また、地域の経済の循環図の情報もあるとわかりやすく、良いのではないか。
- 事務局：今回の資料につきましては、中間報告ということで、そこまで入っておりませんので、最終的な報告書にはRESASの情報を入れて産業分類などもわかるような形でご提供できればと思います。
- 委員：ゴミの排出について、集団回収量というのが2019年からほぼ無くなっているけれども、何か制度上の変更があったのか。
- 委員：各行政区で例えば子供会を中心とした資源の回収を行っていたが、コロナ禍の影響でそういった活動が中止になり、2019年～2020年は少ない状況です。
- 委員：町民活動の中でも、ボランティア以外にも、NPO法人についても経年の推移でどう動いているのか、そのようなところもデータとして分かるとよいのではないか。
- 委員：住民の方の意見が一番重要だと思うので、町への苦情とかどんなものがあるのかが分かると、良いのではないか。

事務局：まちづくり提案箱ということで、町民の皆様のご意見、ご要望、提案が集約されておりますので、そういったものをお示しできればと思います。例えばその子育て世代の方のご意見ということであれば、団体ヒアリングも予定しております。そういった子育て世代の方に集まっていたらご意見いただくことをやっていきますので、幅広い年代の方や、またそれぞれのその立場の方からご意見を集めて、この審議会の場にご提供させていただければと思います。

委員：阿見町には大学などがあるが、学生が卒業してから、阿見町に住んでいる割合とか、その仕事先がどうなのかとか、そういう資料等はあるのか。そういったものでもあれば、また新しい視点が出るかなと思います。何かのフォローを学生さんにすることによって定着してくれて専門性を発揮してくれる人たちが移住してくれるのではないかな。県立医療大学、茨城大学は、大事な医療と農業なので有益というか、町としても力になるのではないかな。

事務局：全体的な数の推移であれば、国勢調査等で年代別に人の出入りの情報を得ています。阿見町ですと、高校を卒業して大学に入る年代の方はかなり外から入ってきている。やはりその方たちが就職するタイミングにかなり外に出て行ってしまっています。大きな数に関しましては、そういった統計で捕まえているところです。ただ、今委員の方からご意見がありましたような細かい就業先ということになると、把握はできておりません。県立医療大学または茨城大学の方で、学生にそういう就業先の調査などをされていけば、ご意見をいただければと思います。

委員：県立医療大学の状況ですが、全体的に茨城県出身者が多いので、アパートを借りなくても自宅から通っている学生も結構多いです。実習等が始まる3年生ぐらいになるとアパートに入る学生も多いので、阿見町に住んでいるということになると思います。就職になると県南地方に病院がたくさんあるので、そのあたりには勤めています。阿見町の病院だと東京医大ぐらいしか大きな病院がありませんので、その辺に就職している卒業生はこのあたりにまだ住み続けている可能性がありますけども、近くで活躍しているというような状況かと思えます。

委員：農学部でも統計的には把握はできていない。業種別でどこに進んでいるのかというところはわかると思いますが、それが果たして阿見町の職場にいるのかとか、あるいは阿見町に住んでいるのかというのはそこまでピンポイントにはわからない。個別に知っているとかはあるけれども、統計的に把握するのは難しいという状況です。

委員：茨城大学ですと、都道府県レベルでは追跡データが一定数あるかもしれない。特に地元定着率という言葉あり、文科省のほうからも言われているため、茨城大学は茨城県内にどれだけ卒業生が就職したかということについては、一定数程度把握できるが、どの自治体かということに関しては、データの持ち合わせがおそらくないのではないかなと思えます。

委員：皆さんのお話、すごく良いご意見だと思いました。同時に、私は阿見町で育った子どもたちが、大学とかで他県に行ったとしても、その後阿見町に戻りたいと思えるような町政が必要かな、と考えております。というのも、私の娘たちも東京に出ましたけれども、やっぱり茨城県に帰りたい、阿見町に帰りたいということで帰ってきました。理由は聞いていないのですが、その魅力が阿見町や茨城にあったのだと思うので、そのようなプラス面に目を向けて、阿見町は、若者にとってどういう魅力があるのかというところを突き詰めていくと、長いスパンでの人口増加に繋がるのかなと感じています。他市町村から入ってくるのもすごく良いことだとは思いますが、やっぱり根本的に阿見町を理解している人たちをもっともっと留めたい、そういう思いが私にはあります。だからそういう視点を入れていただけるとありがたいなと思いました。

委員：オープンキャンパスを実施した際に、このあたりのアパートに住んでいる学生が阿見町の魅力を高校生に教えてくれましたが、すごく住みやすい、生活環境もいい、などプラスの事をたくさん高校生に紹介していました。このあたりに住んでいる学生さんは印象としてプラスの印象が非常に強いのだろうと考えています。前回の第6次総合計画策定時も、高校生、大学生と町長の懇談会を何回か開催していました。今回もそういう若者の意見などをたくさん聞いて、総合計画にできるだけ反映していければと良いと考えています。

委員：農業のマッチングの話がありましたが、非常に良いと思います。ただ、阿見町の産業構造を見ると、県平均からすると、農業は非常に規模が小さい。これから後継者の問題の中でうまく学生とマッチングすれば、継続していけるのではないかとはいいますが、現状、簡単なようで難しいかなといったところがあります。子どもが育って、また戻ってくるように、阿見町の魅力でそれを増やしていくにはどうするかというと、一つはやはり子育て支援をいかに充実させるかといったところが出てくるかと思います。特に質の部分です。ですから、全国平均、県平均と比べても合計特殊出生率が低いというのは、他から入ってくる人がいたとしても、地元にいる人たちが、それだけ子どもを産む数字が少ないといったところを改善していかなくてはならない、これが一つの課題ではないか。ですから、今回のこの総合計画の中でそういうところも具体的に詰めて、いろいろと意見を出していただけると面白いかな、と思います。事例としては、兵庫県の明石市が子育て支援を非常に充実させて、子どもが増えています。人口が増えることが良いことばかりだとは言わないが、でも子育てをしやすい環境を作っていくということは未来において、非常に明るい希望になります。そういうところについて、今回は女性の方が非常に多いので、そういう視点から意見を述べていただけると良いと思います。

事務局：子育て環境の充実というのは非常に大事なテーマだと思います。子どもの人口の増加が見られるというのは、県内でも少なく、その中に阿見町が入っているというのが、現状です。参考までに年齢構成ですと15歳未満の人口の割合が、県内で第9位です。生産年齢人口である15歳から64歳までの人口の割合も県内で第9位です。65歳以上の人口の割合は県内で37番目となっています。これは令和元年度のデータとなります。

委員：私は、生まれは茨城、埼玉で13年、阿見にきてから40年になります。この稲敷、阿見というところは、野菜はおいしい、果物はおいしい、魚もおいしい。そして、意外と物価が安い。この辺も魅力だと思います。他県から比べると。地元の人には気づいていないというか、もっとアピールしていけばいいと思います。

委員：内閣府が骨太の方針に入れ込んでいる、生活満足度調査のようなものがあるが、そういうような調査というのは過去、町内で行われたことはあるのか。骨太の方針だとウェルビーイングという表現も使われているが、統計的に、阿見町が考える生活満足度、高い生活満足度はこうであるというところを捉えるのが大事だと思います。SDGsが2030年で終わり、その次のポストSDGsのキーワードがウェルビーイングだと言われているので、そういう部分を上手く捉えるというか大事なのかなと思うと、暮らして住みよいかどうかということもそうだけでも、総合的に見て満足しているか、満たされているかというところを、調べることができればいいのかなと思いました。私自身は四国出身ですから、県外の人間ですけれども、茨城にきて本当に暮らしやすい良いところだと、良い意味で驚いたというようなこともありまして、そういうところが、うまく可視化されていないのかな、感じましたので、お聞きしました。

事務局：そういった視点での満足度調査というのはありませんが、今回、総合計画のアンケート調査で、現在の阿見町は住みよいですか、という視点で聞いています。そういった満足度については、この次の審議会でご提示できると思います。

委員：今どこの行政でも子育て支援の色々なサービスをやっていると思います。ただ、子育て支援が充実しているから、その町がいいかというと、また別問題のような気がします。先ほど話がありましたが、一度出た人が戻ってくるということは、最終的には両親がそこにいることが大事かと思います。今、各個別の家庭になってしまって、空き家、一人暮らしが増えてきています。昔に戻ろうと言っているわけではないのですが、満足するという心持ちは、インフラとか満足度調査の項目にあるようなものではなくて、その人が、今日より明日、明日より明後日と年老いていくときに感じ取る空気感みたいなものがエネルギーになる空間にすることが、満足だと感じます。なにか活性化している町が動いていて、自分もその中にいて変化するなにかがある、というようなことが感じられる空気感みたいなものが、町の魅力ではないかと思います。そうすると、子育て、子ども、高齢者に対して、生活の満足度に対して、というように、個別に分けて考えてしまうと、今言ったようなバイアスがあちこちにかかってしまうような気がします。心の充実感について、アンケートをとろうと思えば思うほど、具象化したものがただ散らばってしまうだけで、トータルでこの町いいよね、みたいな感じのものが、感じ取れないのではないかと思います。つまり、何かを繋ぐというか、相対的なもので考えていくことを盛り込むみたいな工夫をすることがいいのかな、と考えました。

午後4時30分終了